

総合課程 一般教育科目 科目配当表 (4年生)

(平成29年度以前入学者用)

※科目名のリンクをクリックすることで科目のシラバスにジャンプします

授 業 科 目 名	講/演/実	履修年次	必修/選択	単位数	時間数
A一般教育科目					
⑤生産マネジメントに関する科目					
工場財務と原価管理	講	4	選必・・・E	2	36
企業人材育成論	講	4	選必・・・E	2	36
工場管理 (注3)	講	4	必	2	36
建築生産管理 (注4)	講	4	選必・・・F (建)	2	36
建築経営 (注4)	講	4	選必・・・F (建)	2	36
生産応用課題解決実習 (注3)	実	4	必	1	36

注3 建築専攻以外の科目

注4 建築専攻の科目

(備考) 選択必修科目については、同一アルファベットの中から、いずれかの科目を選択し受講すること。

総合課程 シラバス

課程名: 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者
全専攻		工場財務と原価管理 (Financial Affairs and Cost Management of Factories)	2単位 (36H)	平野 健次
科目・コース 区分	一般教育科目			
授業形態	講義			
履修年次 開講時期	4年次後期			
			必修/選択	
			選必	

授業の目的と概要

【目的】(上位目標) 生産現場の指導者に必須となるコスト感覚を養うための素地を身につける。
 【概要】 生産現場の指導者に求められる知識として、原価計算及び原価管理を中心に、複式簿記、キャッシュフロー、投資経済性などを学ぶ。
 【授業の目標】 財務管理、原価管理の全体像について説明することができる。

到達目標

1. 複式簿記について説明することができる。
2. 原価管理について説明することができる。
3. キャッシュフローに関する内容を読み取ることができる。
4. 財務管理、原価管理の全体像について説明することができる。

授業計画

授業計画		備考
1	複式簿記の構造	
2	仕訳帳と総勘定元帳	
3	合計残高試算表	
4	貸借対照表	
5	損益計算書	
6	原価計算のしくみ	
7	全部原価計算	
8	直接原価計算	
9	原価管理の考え方と進め方	
10	直接費の管理	
11	間接費の管理	
12	キャッシュフローの考え方	
13	フリーキャッシュフローと財務キャッシュフロー	
14	キャッシュフローを考慮した工場実務と事例検討	
15	正味現在価値法による投資経済性	
16	代替案の検討・比較	
17	期末試験	
18	期末試験	

評価方法	授業の最後に数回実施する課題、レポート及び試験により総合的に評価する。
教科書及び参考書	
安全上の注意事項	

主な使用機器等	プロジェクタ、ビデオなど
受講要件※	生産管理、経営管理で学んだ内容を要領よく説明できること。
その他	

総合課程 シラバス

課程名: 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者
全専攻		企業人材育成論 (Human resource development within industry)	2単位 (36H)	村上 智広
科目・コース 区分	一般教育科目			
授業形態	講義		必修/選択	
履修年次 開講時期	4年次後期		選必	

授業の目的と概要

【目的】(上位目標) 将来の生産現場のリーダーとして職場の人材育成の責務を果たすことができる資質を涵養する。

【概要】 ものづくり企業の競争力となる高付加価値を生み出す人材の確保・育成に焦点を当てて、その仕組みや方法を学ぶ。

【授業の目標】 ものづくり企業の人材育成を支える原理・理論、仕組み、方法を述べることができる。

到達目標

1. 企業内人材育成を支える原理・理論の概要を説明できる。
2. 企業内人材育成を支える仕組みの概要を説明できる。
3. 企業内人材育成の方法の概要を説明できる。
4. 企業内人材育成の課題について考えることができる。

授業計画

備考

1	オリエンテーション、仕事の能力と人材の概念理解	
2	ものづくり企業における人材育成の理論的枠組み(1) 人的資本理論	
3	ものづくり企業における人材育成の理論的枠組み(2) 内部労働市場論	
4	ものづくり企業における人材育成の理論的枠組み(3) 知的熟練論	
5	ものづくり企業における人材育成の理論的枠組み(4) 暗黙知・形式知	
6	企業の人材育成を支える仕組み(1) 法制度、企業内制度(組織、体系、学習資源)	
7	企業の人材育成を支える仕組み(2) 企業主導と個人主導	
8	企業の人材育成を支える仕組み(3) 生涯学習理念	
9	人材育成と熟練 キャリア形成(1) 経営課題と人材開発(企業競争力)	
10	人材育成と熟練 キャリア形成(2) 個人課題と熟練形成(エンプロイアビリティ、キャリア)	
11	ものづくりの人材育成(1) 技術者、技術的技能者、熟練技能者	
12	ものづくりの人材育成(2) 品質・コスト・納期・安全性(QCDS)	
13	人材育成の計画(1) 理念・方針・目標、人材・能力開発ニーズ、実施計画	
14	人材育成の計画(2) 体系(階層別、職能別、課題別)	
15	人材育成の方法 形態(1) OJT、Off-JT、自己啓発と企業支援 公的支援	
16	人材育成の方法 形態(2) 社内教育訓練部門と教育訓練プロバイダー	
17	人材育成と能力評価システム(1) 企業における能力評価制度の発展	
18	人材育成と能力評価システム(2) 公的能力評価制度、社内・業界内能力評価制度	

評価方法	出席状況とレポートにより総合的に評価する。
教科書及び参考書	教科書: 授業の都度、資料を配付する。
安全上の注意事項	
主な使用機器等	ビデオ、パソコン、プロジェクタ
受講要件※	
その他	

総合課程 シラバス

課程名: 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者
全専攻		工場管理 (Factory Management)	2単位 (36H)	平野 健次
科目・コース 区分	一般教育科目			
授業形態	講義		必修/選択	
履修年次 開講時期	4年次前期		必修	

授業の目的と概要
<p>【目的】(上位目標) 工場管理全体のしくみを大局的につかむことをねらいとする。</p> <p>【概要】 市場動向や経営環境の変化を念頭に置いて、工場の計画・運営に必要なマネジメントの考え方と実践的な管理方法を学習する。</p> <p>【授業の目標】 工場管理の考え方と実践的な管理方法について、生産管理の諸要素との関連を踏まえて説明することができる。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 工場の計画と運営について概要を説明できる。 2. 工場改善の進め方について説明できる。 3. 工場マネジメントについて留意点を説明できる。

授業計画		備考
1	企業連携と工場計画	
2	物流ネットワーク編成	
3	企画開発・設計・営業部門との業務連携	
4	顧客対応、外注政策と外注管理	
5	製造物責任法、契約、関税などの考慮	
6	プロジェクト組織と指導者の役割	
7	品質向上・コスト削減・納期短縮と工場改善	
8	QCDの同時改善	
9	組織の活性化と継続的改善	
10	オープンイノベーションとオープンビジネスモデル	
11	国際物流とSCM	
12	EMSの活用とその問題点	
13	組織マネジメントと人材育成	
14	生産の自動化とその進展	
15	工場における生産情報の管理と活用	
16	グローバル化時代の工場管理とその基幹情報システム	
17	期末試験	
18	期末試験	

評価方法	授業の最後に数回実施する課題、レポート及び試験により総合的に評価する。
教科書及び参考書	
安全上の注意事項	
主な使用機器等	プロジェクタ、PC、ビデオなど
受講要件※	品質管理、生産管理、経営管理で学んだ内容を要領よく説明できること。
その他	

総合課程 シラバス

課程名: 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者
建築専攻		建築生産管理 (Building Production Management)	2単位 (36H)	山崎 尚志
科目・コース 区分	一般教育科目			
授業形態	講義		必修/選択	
履修年次 開講時期	4年次前期		選必	

授業の目的と概要
<p>【目的】(上位目標) 建築をより合理的に生産するには、あらゆる生産の場面でそれらの生産行為を管理する仕組みが重要である。3年次後期の「建築生産論」では、建築生産の一連のプロセスを示したが、本授業ではそれらのプロセスにおける各種管理技術を主眼に示すものであり、今後の建築技術者にとって不可欠な要素である。</p> <p>【概要】 建築生産プロセスにおける各種管理技術を示す。</p> <p>【授業の目標】 建築生産に関する管理技術・技法を説明できるようになる。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 建築生産の仕組みが略図で表現できる。 2. 建築生産システムが設定できる。 3. プロジェクトのマネジメント技法が見分けられる。 4. 建築生産プロセスとマネジメントを関連付けられる。

授業計画		備考
1	建築生産管理の概要	
2	建築プロジェクトのマネジメント:マネジメントの概要	
3	建築プロジェクトのマネジメント:マネジメント技術の概要	
4	建築プロジェクトのマネジメント:拡大するマネジメント領域	
5	建築生産プロセス各論:建築プロジェクトと企画	
6	建築生産プロセス各論:発注と契約	
7	建築生産プロセス各論:設計と監理	
8	建築生産プロセス各論:コスト管理	
9	建築生産プロセス各論:生産管理	
10	建築の持続的経営と維持保全	
11	ストック時代の建築生産	
12	建設業における技能者育成システム	
13	総括およびディスカッション	

評価方法	期末試験の結果による。
教科書及び参考書	教科書: 建築生産(市ヶ谷出版)
安全上の注意事項	
主な使用機器等	受講生は各自筆記用具など持参すること。
受講要件※	建築施工概論、建築施工管理および建築生産論の単位を取得済みであること。
その他	

総合課程 シラバス

課程名： 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者
建築専攻		建築経営 (Construction Business)	2単位 (36H)	前川 秀幸
科目・コース 区分	一般教育科目			
授業形態	講義			
履修年次 開講時期	4年次後期			
			必修/選択	
			選必	

授業の目的と概要
<p>【目的】(上位目標) 建設業の経営に関する基礎知識を習得する科目である。この授業により、建設業の成立要件を俯瞰的に見ることができる。</p> <p>【概要】 建設業における経営管理及び不動産管理について学習する。また建設業経営の方法と建設業に深く関連する不動産管理について学習する。</p> <p>【授業の目標】 建設業経営の方法と、建設業に深く関連する不動産管理業務について想定できる。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 建設業の概要が記述できる。 2. 建設業経営の財務について記述できる。 3. 建設業経営の周辺分野について記述できる。 4. 不動産の管理の内容が記述できる。

授業計画		備考
1	建築経営概論	
2	建築生産とそれを取り巻く環境の変化	
3	建築生産と産業構造Ⅰ 住宅産業の担い手と市場構成	
4	建築生産と産業構造Ⅰ 住宅産業の歴史	
5	建築生産と産業構造Ⅰ プロジェクトの編成	
6	建築生産と産業構造Ⅱ 一般建設業	
7	建築生産と産業構造Ⅱ 建設業の歴史 他	
8	建築生産と産業構造Ⅱ 建設労働	
9	建築プロジェクトと企画	
10	発注と契約	
11	設計と監理	
12	コスト監理	
13	生産管理	
14	解体と資源循環	
15	建築の持続的経営と維持保全	
16	ストック時代の建築生産	
17	期末試験	
18	期末試験	

評価方法	出席及び小テストの累積により評価する。
教科書及び参考書	教科書： 建築生産(松村秀一編著、市ヶ谷出版社)
安全上の注意事項	
主な使用機器等	
受講要件※	
その他	

総合課程 シラバス

課程名: 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者
全専攻		生産応用課題解決実習 (Advanced problem solving approach in production management)	1単位 (36H)	平野 健次 奥 猛文
科目・コース 区分	一般教育科目			
授業形態	実習		必修/選択	
履修年次 開講時期	4年次前期		必修	

授業の目的と概要
<p>【目的】(上位目標) 生産現場で発生する生産マネジメント上の諸問題について、解決への取り組みができるようにする。</p> <p>【概要】 グループメンバーの意見を調整しながら、問題の分析から解決策の提案までをやり抜くことによって、生産現場の指導者に求められる素養を身につける。</p> <p>【授業の目標】 問題の分析から解決策の提案までをグループワークにより行うことができる。</p>

到達目標
1. 問題の分析から解決策の提案までをグループワークにより行うことができる。

授業計画		備考
1	演習の進め方、グループ編成とグループワークの進め方	
2	事例演習(1)第1回: 事例(生産のシステム化)、データの収集と分析	
3	事例演習(1)第2回: 課題の検討	
4	事例演習(1)第3回: 解決策の立案	
5	事例演習(1)第4回: プレゼンテーション資料の準備	
6	事例演習(1)第5回: 発表と討議、講評	
7	事例演習(2)第1回: 事例(顧客への柔軟な対応)について、データの収集と分析	
8	事例演習(2)第2回: 課題の検討と解決策の立案	
9	事例演習(2)第3回: プレゼンテーション資料の準備	
10	事例演習(2)第4回: 中間発表と討議	
11	事例演習(2)第5回: 提案内容の再検討	
12	事例演習(2)第6回: 発表と討議、講評	
13	事例演習(3)第1回、事例(生産と設計との連携)について、データの収集と分析	
14	事例演習(3)第2回: 課題の検討と解決策の立案	
15	事例演習(3)第3回: プレゼンテーション資料の準備	
16	事例演習(3)第4回: 中間発表と討議	
17	事例演習(3)第5回: 提案内容の再検討	
18	事例演習(3)第6回: 発表と討議、講評	

評価方法	授業期間中に行う演習の取り組み、発表、提出された課題から総合的に評価する。
教科書及び参考書	
安全上の注意事項	
主な使用機器等	PC、プロジェクタ、ビデオなど
受講要件※	工場管理で学んだ内容を要領よく説明できること。
その他	